

14時30分解禁

平成23年10月 全国百貨店売上高概況

平成23年11月18日

I. 概況

1. 売上高総額	5,109億円余
2. 前年同月比	-0.5% (店舗数調整後/4か月連続マイナス)
3. 調査対象百貨店	86社 254店 (平成23年9月対比+1店)
4. 総店舗面積	6,401,280㎡ (前年同月比:-1.0%)
5. 総従業員数	88,025人 (前年同月比:-5.8%)
6. 3か月移動平均値	3-5月 -6.5%、4-6月 -1.2%、5-7月 -0.7%、 6-8月 -0.4%、7-9月 -1.2%、8-10月 -1.5%

[参考] 平成22年10月の売上高増減率は0.6% (店舗数調整後)

【10月売上の特徴】

4か月連続の前年同月比マイナスであるが、減少幅は0.5%と前年並みに推移した。欧州リスクやタイの洪水など、景気の先行き懸念はあるものの足元の状況は堅調といえる。

10月は、中旬に夏日を記録するなど不安定な天候によって、一部季節商材が苦戦する場面もあったが、気温低下とともに主力の秋冬物ファッション (衣料品:+0.5%/8か月ぶりプラス) が活発に動き売上を下支えした。また、地方物産展等の各種催事が例年以上に積極展開されたことも集客面でプラス要素となったが、ここ数か月好調を維持してきた高額商材が大都市旗艦店を除き一服したことなどもあって、前年実績には僅かに届かなかった。

具体的な動向としては、先月水準を下げた東北地区が復調 (仙台:+9.7%、東北:+5.2%) したこと、名古屋や福岡など一部地域ではプロ野球の優勝セールが活況であったこと、訪日外国人市場が引き続き回復傾向を強めている (売上高:-5.4%、買上客数:-19.2%) こと、などが報告されている。なお、当協会が10月に実施した業界共同被災地支援キャンペーンは、多数の参加 (チャリティ商材販売10万個以上、プレゼント企画の応募47万通以上) を得て期待以上の成果であった。

【要因】

- (1) 天 候 : 気象庁発表「10月の天候」の特徴は以下のとおり (一部抜粋)
 - ◇ 低気圧と高気圧が交互に通過したため、天気は数日の周期で変わった。上旬は強い寒気の影響で顕著な低温となった時期があった一方、中・下旬には温かい気流の影響で夏日となるなど、月を通して気温の変動が大きかった。
- (2) 営業日数増減 30.8日 (前年同月比-0.1日)
- (3) 土・日・祝日の合計 11日 (// ±0日)
- (4) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比)
 - ①増加した: 43店、②変化なし: 30店、③減少した: 61店、④不明: 39店
- (5) 10月歳時記 (体育の日、旅行シーズン) の売上 (同上)
 - ①増加した: 17店、②変化なし: 51店、③減少した: 34店、④不明: 71店
- (6) 翌月売上見通し (回答店舗数で見る傾向値)
 - ①増加する: 18店、②変化なし: 84店、③減少する: 26店、④不明: 45店

全国百貨店 売上高速報 2011年10月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	510,961,624	100.0	-0.5 (-0.2)
10都市	330,987,715	64.8	-0.7 (0.5)
札幌	12,483,391	2.4	-2.5
仙台	7,241,325	1.4	9.7
東京	125,371,509	24.5	-1.9 (-2.7)
横浜	29,091,234	5.7	1.7 (0.9)
名古屋	30,891,150	6.0	0.1
京都	20,040,500	3.9	-0.5
大阪	64,763,920	12.7	1.1 (5.0)
神戸	13,777,298	2.7	-0.3
広島	11,564,811	2.3	-2.9
福岡	15,762,577	3.1	-5.9 (14.3)
10都市以外の地区	179,973,909	35.2	-0.2 (-1.5)
北海道	3,090,172	0.6	-0.3
東北	9,464,948	1.9	5.2 (-9.7)
関東	86,598,781	16.9	0.4 (0.1)
中部	14,294,190	2.8	-1.1
近畿	17,124,193	3.4	-2.2
中国	12,515,944	2.4	-2.6
四国	9,648,791	1.9	2.3
九州	27,236,890	5.3	-1.9 (-4.4)

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	510,961,624	100.0	-0.5 (-0.2)
紳士服・洋品	41,256,719	8.1	1.1 (2.2)
婦人服・洋品	130,057,293	25.5	0.7 (0.5)
子供服・洋品	13,121,537	2.6	-0.4 (0.5)
その他衣料品	14,409,598	2.8	-1.9 (-2.0)
衣 料 品	198,845,147	38.9	0.5 (0.7)
身のまわり品	63,055,600	12.3	-0.6 (-0.2)
化粧品	26,722,185	5.2	1.4 (1.5)
美術・宝飾・貴金属	22,643,823	4.4	-0.4 (0.0)
その他雑貨	20,332,353	4.0	-1.3 (-1.3)
雑 貨	69,698,361	13.6	0.0 (0.2)
家 具	6,411,632	1.3	-5.6 (-5.2)
家 電	1,431,568	0.3	-23.4 (-23.4)
その他家庭用品	16,814,114	3.3	-3.0 (-3.0)
家 庭 用 品	24,657,314	4.8	-5.1 (-5.0)
生 鮮 食 品	27,335,665	5.3	-4.0 (-3.9)
菓 子	29,684,619	5.8	-0.9 (0.8)
惣 菜	30,627,650	6.0	2.5 (3.2)
その他食料品	37,499,204	7.3	0.3 (-0.1)
食 料 品	125,147,138	24.5	-0.5 (0.0)
食 堂 喫 茶	14,194,977	2.8	-1.5 (0.7)
サ ー ビ ス	5,779,270	1.1	-0.3 (-1.4)
そ の 他	9,583,817	1.9	-10.9 (-11.9)
商 品 券	12,965,598	2.5	-21.1 (-21.1)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

Ⅱ. 地区別の動き

- | | |
|------------------|----------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | -0.7% (店舗数調整後 / 4か月連続マイナス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | -0.2% (// / 3か月連続マイナス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	-0.7	-0.4	4か月連続マイナス
札幌	-2.5	-0.1	6か月連続マイナス
仙台	9.7	0.1	6か月連続プラス
東京	-1.9	-0.5	4か月連続マイナス
横浜	1.7	0.1	2か月ぶりプラス
名古屋	0.1	0.0	2か月ぶりプラス
京都	-0.5	0.0	8か月連続マイナス
大阪	1.1	0.1	3か月ぶりプラス
神戸	-0.3	0.0	6か月連続マイナス
広島	-2.9	-0.1	4か月連続マイナス
福岡	-5.9	-0.2	39か月連続マイナス
10都市以外の地区	-0.2	-0.1	3か月連続マイナス
北海道	-0.3	0.0	12か月連続マイナス*
東北	5.2	0.1	2か月ぶりプラス*
関東	0.4	0.1	4か月ぶりプラス
中部	-1.1	0.0	8か月連続マイナス
近畿	-2.2	-0.1	7か月ぶりマイナス
中国	-2.6	-0.1	4か月連続マイナス*
四国	2.3	0.0	52か月ぶりプラス
九州	-1.9	-0.1	3か月連続マイナス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行したため(2005年までは6大都市)、連続性の観点から2007年1月からのトレンドとした。

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目では、衣料品が8か月ぶり、雑貨が3か月ぶりのプラス(前年並)となった。マイナスは身のまわり品、家庭用品、食料品。また、婦人服・洋品が8か月ぶり、紳士服・洋品、その他食料品が4か月ぶり、化粧品が3か月ぶり、惣菜が6か月連続のプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-0.5	—	4か月連続マイナス
紳士服・洋品	1.1	0.1	4か月ぶりプラス
婦人服・洋品	0.7	0.2	8か月ぶりプラス
子供服・洋品	-0.4	0.0	2か月連続マイナス
その他衣料品	-1.9	-0.1	44か月連続マイナス
衣料品	0.5	0.2	8か月ぶりプラス
身のまわり品	-0.6	-0.1	3か月連続マイナス
化粧品	1.4	0.1	3か月ぶりプラス*
美術・宝飾・貴金属	-0.4	0.0	5か月ぶりマイナス*
その他雑貨	-1.3	-0.1	47か月連続マイナス*
雑貨	0.0	0.0	3か月ぶりプラス
家具	-5.6	-0.1	3か月連続マイナス
家電	-23.4	-0.1	3か月連続マイナス
その他家庭用品	-3.0	-0.1	3か月連続マイナス
家庭用品	-5.1	-0.3	3か月連続マイナス
生鮮食品	-4.0	-0.2	4か月連続マイナス*
菓子	-0.9	-0.1	2か月連続マイナス*
惣菜	2.5	0.1	6か月連続プラス*
その他食料品	0.3	0.0	4か月ぶりプラス*
食料品	-0.5	-0.1	4か月連続マイナス
食堂喫茶	-1.5	0.0	3か月連続マイナス
サービス	-0.3	0.0	11か月連続マイナス
その他	-10.9	-0.2	4か月連続マイナス
商品券	-21.1	-0.7	8か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化したため、2007年1月からのトレンド

平成23年10月 東京地区百貨店売上高概況

平成23年11月18日

I. 概況

1. 売上高総額	1,253億円余
2. 前年同月比	-1.9% (店舗数調整後/4か月連続マイナス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭0.2%(90.4%) : 非店頭-18.5%(9.6%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 26店 (平成23年9月対比+1店)
5. 総店舗面積	915,720㎡ (前年同月比:-2.9%)
6. 総従業員数	19,025人 (前年同月比:-8.3%)
7. 3か月移動平均値	3-5月 -10.7%、4-6月 -3.1%、5-7月 -1.7%、 6-8月 -1.2%、7-9月 -2.5%、8-10月 -2.8%

[参考] 平成22年10月の売上高増減率は2.7%

【10月売上の特徴】

- (1) 東京地区の全般的な商況は、全国同様に気温・天候の変化と連動する形で推移した。気温の高い日が続いた中旬までは低調だったが、下旬からの冷え込みで重衣料などが動き始め、月の後半に挽回するという構図であった。
- (2) 東京地区では主力の衣料品が前年割れであったが、紳士服については各店で改装や新ブランド投入などの強化策が取られた結果、3.1%増と比較的大きな伸びを示した。
- (3) 10月は都内各店で趣向を凝らした様々な催事が展開された。地方物産展をはじめ銀座地区のファッション共同企画やネット企業とのタイアップ企画などが話題となった。
- (4) 東京地区では身のまわり品が売上を伸ばしたが、中でも婦人アクセサリについては、ブライダル需要の盛り上がりなどを背景にほぼ全店で前年比プラスとなった。
- (5) 10月から早期受注がスタートした「おせち」は、絆消費や家庭回帰のトレンドを背景に、昨年以上に順調な滑り出しを見せている。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.5日 (前年同月比-0.5日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比)
①増加した: 5店、②変化なし: 4店、③減少した: 11店、④不明: 1店
- (3) 10月歳時記 (体育の日、旅行シーズン) の売上 (同上)
①増加した: 3店、②変化なし: 6店、③減少した: 5店、④不明: 7店
- (4) 翌月売上見通し (回答店舗数で見る傾向値)
①増加する: 1店、②変化なし: 12店、③減少する: 7店、④不明: 1店

東京地区百貨店 売上高速報 2011年10月

※店舗数調整後 ()が調整前

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	125,371,509	100.0	-1.9 (-2.7)
紳士服・洋品	12,555,755	10.0	3.1 (2.9)
婦人服・洋品	28,920,995	23.1	-1.2 (-3.3)
子供服・洋品	2,414,699	1.9	-4.4 (-4.4)
その他衣料品	2,787,180	2.2	-10.9
衣 料 品	46,678,629	37.2	-0.9 (-2.3)
身のまわり品	17,240,656	13.8	0.5 (-2.0)
化粧品	6,442,406	5.1	2.2 (-0.2)
美術・宝飾・貴金属	6,468,728	5.2	-1.6
その他雑貨	6,498,155	5.2	-0.6 (-1.1)
雑 貨	19,409,289	15.5	0.0 (-1.0)
家 具	1,750,162	1.4	-14.7 (-14.9)
家 電	784,975	0.6	0.4
その他家庭用品	4,238,302	3.4	-8.1 (-8.1)
家 庭 用 品	6,773,439	5.4	-9.0 (-9.1)
生 鮮 食 品	4,610,713	3.7	-2.8 (-0.1)
菓 子	6,867,324	5.5	-3.6 (-2.7)
惣 菜	6,911,173	5.5	7.5 (8.9)
その他食料品	8,436,510	6.7	-4.2 (-3.5)
食 料 品	26,825,720	21.4	-1.0 (0.3)
食 堂 喫 茶	3,153,761	2.5	-2.5 (-3.1)
サ ー ビ ス	2,310,808	1.8	-2.6 (-5.6)
そ の 他	2,979,207	2.4	-26.3 (-26.2)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率 (%)

※

商 品 券	3,324,293 千円	-45.6 (-45.8)
従 業 員 数	19,025 人	-8.3
店 舗 面 積	915,720 m ²	-2.9

営 業 日 数	30.5 日	前年	31.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目では、身のまわり品が3か月ぶりのプラス。マイナスは衣料品、家庭用品、食料品。雑貨が前年並みとなった。また、紳士服・洋品、化粧品が3か月ぶり、家電が4か月連続、惣菜が3か月連続のプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-1.9	—	4か月連続マイナス
紳士服・洋品	3.1	0.3	3か月ぶりプラス
婦人服・洋品	-1.2	-0.3	8か月連続マイナス
子供服・洋品	-4.4	-0.1	2か月連続マイナス
その他衣料品	-10.9	-0.3	42か月連続マイナス
衣料品	-0.9	-0.3	4か月連続マイナス
身のまわり品	0.5	0.1	3か月ぶりプラス
化粧品	2.2	0.1	3か月ぶりプラス*
美術・宝飾・貴金属	-1.6	-0.1	5か月ぶりマイナス*
その他雑貨	-0.6	0.0	2か月連続マイナス*
雑貨	0.0	0.0	4か月ぶりマイナス
家具	-14.7	-0.2	7か月連続マイナス
家電	0.4	0.0	4か月連続プラス
その他家庭用品	-8.1	-0.3	2か月連続マイナス
家庭用品	-9.0	-0.5	2か月連続マイナス
生鮮食品	-2.8	-0.1	3か月ぶりマイナス*
菓子	-3.6	-0.2	4か月連続マイナス*
惣菜	7.5	0.4	3か月連続プラス*
その他食料品	-4.2	-0.3	9か月連続マイナス*
食料品	-1.0	-0.2	4か月連続マイナス
食堂喫茶	-2.5	-0.1	2か月連続マイナス
サービス	-2.6	0.0	5か月連続マイナス
その他	-26.3	-0.8	4か月連続マイナス
商品券	-45.6	-2.2	6か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化したため、2007年1月からのトレンド

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・佐藤・西田まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>